



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月5日

上場会社名 株式会社ショーエイコーポレーション
 コード番号 9385 URL <http://www.shoei-corp.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 芝原 英司

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 (氏名) 有村 芳文

TEL 06-6233-2636

四半期報告書提出予定日 2021年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	15,486	8.5	1,014	112.3	989	116.8	666	137.0
2020年3月期第3四半期	14,267	7.7	477	31.6	456	33.1	281	28.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 622百万円 (109.9%) 2020年3月期第3四半期 296百万円 (91.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	104.48	
2020年3月期第3四半期	44.13	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	10,584	4,652	44.0	602.03
2020年3月期	9,037	2,695	29.8	431.81

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 4,652百万円 2020年3月期 2,695百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		20.00	20.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,861	9.1	1,350	114.9	1,312	107.5	900	121.6	134.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	7,850,000 株	2020年3月期	6,850,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	121,736 株	2020年3月期	606,700 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	6,383,087 株	2020年3月期3Q	6,376,266 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞状況から、徐々に活動が再開するにつれ持ち直しの動きがみられたものの、新型コロナウイルス感染症が再び拡大し、第2波、そして現在の第3波と続き、12月にはウイルスの変異種が確認されるなど、まだまだ収まる気配がなく、感染拡大に伴う影響、その収束時期は依然として不透明であり、先行きについてもしばらくは厳しい状況が続くものと考えております。

個人消費におきましては、インバウンド需要の消失、外出自粛の要請、テレワークへのシフト継続等の影響により、生活費の負担は増加し、節約意識は高まる傾向が続いておりますが、一方で多くの時間を自宅で過ごす新しい生活様式への対応から消費者のライフスタイル、消費動向は大きく変化してきております。

このような状況下、当社グループは「人や環境にやさしい商品作りのできる、高収益で成長力のある会社」になるために事業領域の拡大、転換を進めてまいりました。高収益で成長性のある会社になるためには自社商品、自社ブランドを持つメーカーとなることが必要であり、当社グループの強みである企画力、調達力、商品開発力を活かして、より良い商品・製品を提供していくためにマーケティング機能、企画製造機能を一層充実させていく計画を進めております。その一環として、昨年12月に新株式発行及び自己株式の処分による資金調達を実施し、財務基盤を強固にし、信用力を高め、当社グループの今後の更なる資金需要に 대응していくための体制を備えました。

業績面におきましては、これまで進めてきた販売促進支援の企画提案による販促営業、充填セット推進の成果がコロナ禍においても表れており、「営業促進支援事業」においては商品（販促）売上が前年同期比 209百万円増加（12.8%増）、充填セット売上が前年同期比 651百万円増加（63.8%増）、と大きく伸びました。加えて100円ショップやドラッグストア等量販店に対しても、市場の動向及びニーズをタイムリーに掴み、企画提案を進めた結果、レジ袋などの消耗品、衛生用品、手芸用品等をはじめ、好調に推移し、「商品販売事業」においては100円ショップ向け売上が前年同期比 632百万円増加（13.0%増）、量販店向け売上が前年同期比 283百万円増加（37.5%増）となりました。しかしながら各種イベントの中止や延期、販促品キャンペーンの自粛、旅行業界等への影響が大きく、封入封緘、物流の売上は落ち込み、またインバウンドの急激な減少により化粧品の充填セットは厳しい環境が続いております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,486百万円（前年同期比8.5%増）となりました。利益につきましては、低利率であった封入封緘、物流の売上が減少する一方で、高利率である充填セット売上、商品（販促）売上が伸びたこと、商品販売事業の利益率が改善されたこと、また販管費が抑えられることから、営業利益は1,014百万円（前年同期比112.3%増）、経常利益は989百万円（前年同期比116.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は666百万円（前年同期比137.0%増）となり前年同期に比べ大幅な増益となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を再編しました。それに伴い、以下の前年同期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

（営業促進支援事業）

当セグメントにつきましては、お客様自身の営業を一層促進していただくために、企画から配送にいたるまで商品・サービスの提供、支援をさせていただく事業であります。これまで進めてきた販売促進支援の企画提案による商品・販促営業、医薬部外品及び雑貨品等の充填セットの売上高は前年同期を大きく上回りました。しかしながら、このコロナ禍において、各種イベントの中止や延期、販促品キャンペーンの自粛、旅行業界等への影響が大きく、パッケージ製品、封入封緘、物流の売上が落ち込み、インバウンドの急激な減少により化粧品の充填セットは厳しい環境が続いているものの、売上高は前年同期を上回りました。また現在取り組んでいる高収益で成長性のある会社になるための自社商品、自社ブランドメーカー転身の足掛かりとして販促営業、充填セットが大きく伸びるなど、高利益率の売上へのシフトが進み始めていることから、利益率の改善が図られ、セグメント利益は増収率に比べて、前年同期を大幅に上回りました。

その結果、売上高は8,279百万円（前年同期比4.9%増）、セグメント利益は820百万円（前年同期比54.2%増）となりました。

(商品販売事業)

当セグメントにつきましては、100円ショップやドラッグストア等量販店、小売販売店に対して、商品を企画提案し、調達し、そして提供させていただく事業であります。100円ショップやドラッグストア等量販店、小売販売店に対し、市場の動向及びニーズをタイムリーに掴み、企画提案を進めた結果、レジ袋などの消耗品、衛生用品、手芸用品等をはじめ、好調に推移したことにより、売上高は前年同期を上回りました。また海外仕入れについては取引工場への指導や取引先の変更も含めた仕入れ価格の低減化を進めていることや、運賃やロジスティクス部門の効率的運用を進めていることから、利益率の改善が図られ、セグメント利益は増収率に比べて、前年同期を大幅に上回りました。

その結果、売上高は7,217百万円(前年同期比13.2%増)、販管費が抑えられたことで、セグメント利益は616百万円(前年同期比92.0%増)となりました。

(その他の事業)

その他の事業につきましては、物流倉庫の賃貸を行っており、売上高は18百万円(前年同額)、セグメント利益は12百万円(前年同期比0.4%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は10,584百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,546百万円増加しました。これは主に売上の増加により受取手形及び売掛金や商品及び製品等が増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は5,931百万円となり、前連結会計年度末に比べ410百万円減少しました。これは主に輸入の決済において手形から振込に変えたことにより支払手形及び買掛金等が減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は4,652百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,956百万円増加しました。新株式の発行及び自己株式の処分並びに株式の売出しに伴い資本金が486百万円、資本剰余金が739百万円増加し、自己株式が232百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年1月12日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

(当社グループにおける新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルスの感染拡大の影響に関して、当社グループの国内外の各事業拠点においては、引き続き厳重な対策を実施した上で事業活動を継続しており、平常時と同水準の稼働率を維持しております。当第3四半期連結累計期間においては、当社グループの業績に重要な影響は及ぼしておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	874,423	577,247
受取手形及び売掛金	2,852,506	3,493,753
電子記録債権	331,252	745,596
商品及び製品	1,613,902	2,299,278
仕掛品	173,423	140,014
原材料及び貯蔵品	88,719	109,925
その他	403,504	402,877
貸倒引当金	△1,324	△1,584
流動資産合計	6,336,406	7,767,108
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,125,075	1,125,075
その他(純額)	839,760	819,162
有形固定資産合計	1,964,835	1,944,237
無形固定資産		
その他	151,659	140,667
無形固定資産合計	151,659	140,667
投資その他の資産		
その他	618,859	766,416
貸倒引当金	△34,221	△34,232
投資その他の資産合計	584,638	732,183
固定資産合計	2,701,133	2,817,089
資産合計	9,037,539	10,584,197
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,979,579	1,470,543
短期借入金	2,970,000	3,040,000
1年内返済予定の長期借入金	109,300	98,800
未払法人税等	137,684	159,580
未払消費税等	109,155	53,799
賞与引当金	111,393	75,744
その他	315,425	457,870
流動負債合計	5,732,537	5,356,337
固定負債		
長期借入金	142,850	78,650
退職給付に係る負債	39,936	39,155
長期末払金	144,212	144,212
その他	282,067	313,203
固定負債合計	609,065	575,221
負債合計	6,341,603	5,931,559

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	229,400	715,615
資本剰余金	175,478	915,408
利益剰余金	2,358,283	2,900,344
自己株式	△289,380	△56,918
株主資本合計	2,473,780	4,474,449
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113,511	150,046
繰延ヘッジ損益	27,383	△2,423
為替換算調整勘定	81,261	30,565
その他の包括利益累計額合計	222,155	178,189
純資産合計	2,695,936	4,652,638
負債純資産合計	9,037,539	10,584,197

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	14,267,266	15,486,520
売上原価	11,529,554	12,061,697
売上総利益	2,737,711	3,424,823
販売費及び一般管理費	2,260,143	2,410,749
営業利益	477,567	1,014,074
営業外収益		
受取利息	97	221
受取配当金	5,676	6,423
為替差益	—	26,231
デリバティブ評価益	894	—
資材売却収入	3,871	2,792
保険解約返戻金	7,750	—
その他	3,517	760
営業外収益合計	21,808	36,429
営業外費用		
支払利息	32,018	19,700
為替差損	2,949	—
デリバティブ評価損	—	26,086
新株発行費	—	10,398
その他	7,795	4,365
営業外費用合計	42,764	60,551
経常利益	456,611	989,951
特別利益		
固定資産売却益	1,141	—
特別利益合計	1,141	—
特別損失		
固定資産売却損	139	—
固定資産除却損	54	573
投資有価証券評価損	20,254	—
特別損失合計	20,448	573
税金等調整前四半期純利益	437,305	989,378
法人税、住民税及び事業税	109,180	268,965
法人税等調整額	46,725	53,485
法人税等合計	155,906	322,451
四半期純利益	281,398	666,927
親会社株主に帰属する四半期純利益	281,398	666,927

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
四半期純利益	281,398	666,927
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,295	36,535
繰延ヘッジ損益	4,843	△29,806
為替換算調整勘定	24,833	△50,695
その他の包括利益合計	15,380	△43,966
四半期包括利益	296,778	622,960
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	296,778	622,960

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年11月17日開催の取締役会において、公募による新株式発行(一般募集)及び公募による自己株式の処分(一般募集)並びに第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出し)による新株式発行を決議いたしました。2020年12月2日を払込期日とする公募による804,400株の新株式(普通株式)発行及び公募による500,000株の自己株式(普通株式)の処分により、資本金が391,111千円、資本剰余金が644,826千円増加し、自己株式が232,500千円減少しております。

また、2020年12月24日を払込期日とする第三者割当増資による195,600株の新株式(普通株式)発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ95,103千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が715,615千円、資本剰余金が915,408千円、自己株式が56,918千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	営業促進 支援事業	商品販売 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,894,484	6,354,781	14,249,266	18,000	14,267,266
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	23,239	23,239	-	23,239
計	7,894,484	6,378,021	14,272,505	18,000	14,290,505
セグメント利益	531,832	320,989	852,821	12,824	865,645

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	852,821
「その他」の区分の利益	12,824
セグメント間取引消去	3,525
全社費用(注)	△391,603
四半期連結損益計算書の営業利益	477,567

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	営業促進 支援事業	商品販売 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,279,128	7,189,392	15,468,520	18,000	15,486,520
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	27,947	27,947	-	27,947
計	8,279,128	7,217,339	15,496,467	18,000	15,514,467
セグメント利益	820,135	616,274	1,436,410	12,876	1,449,287

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,436,410
「その他」の区分の利益	12,876
セグメント間取引消去	△128
全社費用(注)	△435,083
四半期連結損益計算書の営業利益	1,014,074

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2020年4月より事業効率の最適化及び当社の経営管理の実態に合わせ、報告セグメントを従来の「パッケージ事業」、「メディアネットワーク事業」及び「日用雑貨品事業」の3区分から、「営業促進支援事業」及び「商品販売事業」の2区分に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。